



発行所 青山同窓会 新潟市関屋下川原町二 新潟高校内 発行人 齊藤希弼 印刷所 オリオン印刷

公安委員会指定 新潟関屋自動車学校 45回生 綿井兵衛 関屋浜松町 電話 66-3519

着任のご挨拶

教頭 古沢三郎



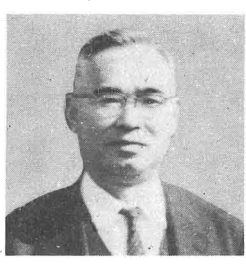
私は、本年四月一日付をもって本校の教頭を命ぜられ、着任いたしました。

私は、本県高田市に生れ、育ったものでありますが、旧制高校の三年間は新潟で過ごしたので、当地にはなつかしい思い出が、たくさんあります。当時、本校は県立新潟中学校だったわけですが、

私達は時折、本校へ野球の試合に参った記憶があります。あの頃のグラウンド周辺は、人家の数が今よりずっと少なかったように思います。大学卒業後、私は母校である高田高校に十五年間勤務し、その後、小千谷高校、県教育委員会と移り、このたび本校に転任して参りました。

本校に赴任以来、僅かな期間ではありますがありますが、校史を読み、先生方から話を聞き、また生徒諸君の醸し出す雰囲気から、本校の古きよき伝統の一端を、私なりに知り得たと思っております。就中、昭和二十九年の火災後の復興について、

私達は時折、本校へ野球の試合に参った記憶があります。あの頃のグラウンド周辺は、人家の数が今よりずっと少なかったように思います。大学卒業後、私は母校である高田高校に十五年間勤務し、その後、小千谷高校、県教育委員会と移り、このたび本校に転任して参りました。



古沢三郎先生

また二十一年間を御校で過ごさせていただきました。教師生活の三分の二ですから私なりに感慨の深いものがござりますが、多くの先輩方と同じく、何よりも御校を長い間の職場として許されたことの幸福に厚い感謝をささげたい気持ちでいっぱいです。これは在職中もいつとも離れない気持ちでしたが退いてみてもいさらのように強く胸にせまるものがあります。

古人も天下の俊才を得てこれを教育することを第一の楽しみとしましたが、雲のような優秀な生徒とそれが困りながらもまた優秀な教師陣とのかもし出す気品ある好学的な環境に接して、わけても働きたがりが学定時制の生徒の前に立つ時感慨深いものがある。

越後平野のど真中に私は農家の倅として生れ、兄弟四人中男一人とあって農家の後継者とならざるを得なかった。私自身後継者となることを決して宿命的な絶望的なものだと考えていたのではない。

中学校卒業当時の農村は高度経済成長の兆があつたことは言うも現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、

私ははつきりしたものはなく、一般教養部を補充するためであった。従つて卒業にあまり固執せず「すべての事業を捨てて通信の学習にあたる」という人に対し「幅広く青春を生きよう」と反論した記憶がある。

当時の通信教育部に一点の灯がともされ、両先輩に次ぐことが私の目標となつたのである。私も卒業資格云々というより、これまで続けたものを何んとか一つのものに完成したいと思つた。自分の生活を整理するには数多くの障害もあつたが、少づつ通信へのウエイトを高めたわけである。当時の通信教育部は科目の履修について現在よりも選択が自由であつたように思う。

ご挨拶

前教頭 土岐元春

戻つてみると別離の感傷も手伝出されぬいものでした。自由で偏見のない適度にリラックスした生徒の気風、それに明るくかけりのない職員同志の交際もかけ換えないものでした。そして常に県下第一級の学校に在るという自負と責任感もいつも快い充実感を与えて心の支えとなりました。加えて七十五年にわたる歴史を飾る同窓諸君の暖かい団結と激励に守られ、理解ある父兄の後援に支えられて、川口、外川、井上など御校関係の先輩や同僚が多かれ少なれに余る環境。にもかかわらず生来の怠け者と物ぐさでついに全力をつくし得なかつた悔恨。いまふ

共市内にひとつの私立高校の設立を企てています。柄にもない冒険ですが、明治二十年代の前半、御校の前身ともいふべき北越学園が存在したことを多くの方々にご承知と思ひます。事実、本校創立当初の生徒が多くこの学校から横滑りであつたことは当時の学籍簿で明瞭であります。キリスト教主義による教育を旨とした当地先覚者の志をもう一度受けついでその夢を実現したいと思つておられます。

御校関係の皆様御発展を祈りますと共に今後の御後援をお願い致しまして御挨拶いたします。

地方選挙の結果
去る四月の統一地方選挙に立候補当選した同窓は次の通りである。(註、氏名の下のカッコ内の数字は、上が卒業回数、下が当選回数)
新潟市長
渡邊 浩太郎 (三〇・三)
新潟市議会議員(当選順位)
山名 正二 (三四・一)
野沢 正一 (三九・四)
大桃十三雄 (四六・三)
村山勇一郎 (三七・七)
早福 卓 (五五・一)
高野 一 (四五・一)
市川 嘉瑞 (三七・二)
倉田 勇吉 (三三・六)
高藤 武雄 (三四・三)
平田 基 (四〇・三)
尚、村山勇一郎氏は議長に選出された。

同窓職員の栄転
三月の教員異動で、母校勤務の同窓職員三氏が栄転され、今後の活躍が期待される。
●三八回 近藤 円

新発田市五十野中学校長 ●四〇回 阿部芳男
新設の村上女子高等学校長 ●四〇回 松田一郎
県教育庁指導主事 尚左記同窓が職員として新しく赴任された。
●五五回 野崎誠哉(数学)
●五八回 曾我 浩(生物)
●六五回 尾関通郎(社会)
●六七回 沢田俊一(英語)
●六八回 小林(旧近藤)和子(英語)

印章・鑄造ゴム印・銅判 プラスチック看板・印刷一般
山崎製印所
専務取締役 山崎勝朗 60回生
新潟市並木町 TEL (22) 33883 (22) 5547

運営軌道に乗る

幹事長 齊藤希弼

予算面には、会費の収入は一応控えめに二〇万円を計上して、承認をお願いしたのに、結果として実に十五万円を上廻る送金をいたゞき、これからの本会の運営に、大きな光明を与えられた意義を、決して忘れてなるまじものと、深く肝に銘じている。

次に、本会は現在約六〇〇名の女子同窓と、一一九名の通信教育部同窓を擁しているが、おそろしく大方の諸君にとつても驚きである。この一年間、各支部、各期、各クラスの総会が益々活発に開かれて、この三月二十三日には、新宿第一ホテルで開かれた東京支部

幹事長 齊藤希弼
かなたの方を積極的にお願いしたいと思つたのである。この一年間、各支部、各期、各クラスの総会が益々活発に開かれて、この三月二十三日には、新宿第一ホテルで開かれた東京支部

健康を心からお祈りするものである。に、本会の為にも、今後一層の「奔走」苦勞を、多くすると共に、

私は昨年県の教員採用試験を受けて、今年四月から新井高等学校に奉職している。定時制中心校に籍を置きながら、全日制並びに分校への出講が毎日、いろいろな生徒に接している。わけても働きたがりが学定時制の生徒の前に立つ時感慨深いものがある。

越後平野のど真中に私は農家の倅として生れ、兄弟四人中男一人とあって農家の後継者とならざるを得なかった。私自身後継者となることを決して宿命的な絶望的なものだと考えていたのではない。

中学校卒業当時の農村は高度経済成長の兆があつたことは言うも現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、現在の如く変化もしておらず、

通信制を卒業して考えること
通信制第四回卒業 近藤 一弥

従つて自分の得意とする科目はなつてしまつた。高校通信から大単位の累積が早く、反面得意でないものは何年越しというのがざらである。私にとって再試験は実に多量な力を要する結果になつた。ピクク時には「費す時間はあまりにも多く、反面通信の系は次第に細くなつていった。

しかしながら民間企業不況による教員志願の増大は、いさおい教員の道を狭くしていることは充分承知していた。わけても志望する教科が社会科とあつては、その見通しは全く暗いという以外にはなかつた。高校、大学と大試験を体験して行きたいと思つたのである。
一九六七・六・十四記



特集 栄光燦たり

第一回 陸上競技部



本号から、青陵七十五年の歴史の上で、われわれの先輩が、血と涙と汗で築いた各部の金字塔の数々を、特集として順次に回顧していくことにしました。

編集部

勝利の味

二九回 竹内 清 栄
(三共プリント工業社社長)

大正九年の県下中等学校陸上競技大会は、新潟師範と同点で一位独占とならなかつただけに両校にとつては、いわば決戦大会であつた。そしてこれが学校対抗としての最後ということ(次回より団体採点をしない個人競技となる)なごからしてもその責任は重大を感じさせた。而も卒業成績が全体の三分の二以内でない選手資格が与えられない校長会議の決議などで、選手編成が心配された。

この年の余勢を駆って翌年春、湊元、山下の二人を八木校長が引率して全国中等学校陸上競技大会に優勝を勝ち得た戦果も青山スポーツ史に輝いている筈です。さて、愈々大会が近づいて各々のタイムやレコードの偵察は綿密に行われた。その結論として八百米、千六百米の両リレーは新潟師範と接戦が必至となり、ユニフォームの色分けを望む程神経も高まってきました。新選手ランドを訪問し上下の色合いを訊したところ、両校共上下全白とわかり、先方では変更の意向のないことを知りました。

そんなら一番、グンと派手にやりましたよと決めたのが早稲田色サビ赤に青山の頭文字Aを白マーカーとして胸一杯に抜き、パンツは白、トレーニングシャツの替りに紺のアンダーシャツ、これにも同じ白Aマーカーを付けると云つた戦意をユニフォームに燃やしたのでした。

大会前日は大雨でした。当日は晴れたものの、グラウンドコンディションは悪く、先輩達は案じました。選手一同順調に予選を勝ち進んで優勝は時間の問題位に思つていたところ、決勝にうつると、八百米リレー(これは復活)四百米、千六百米と次々と入賞しながら失格を宣せられ、賞行きは只ならぬ荒模様となり、選手一同顔色蒼白となり、相擁して泣く場面も

出たのですが、それでも二点の差をつけて優勝が逃げなかつたのは運があつたのでしよう。

山下降吉氏談(現新潟市嘱託) 大正十年の県下中等学校陸上競技大会のわが校出場選手は五年生は竹内主将、栗原健一、佐藤良の三氏だけで他は四年生で編成されました。

この大会が終れば新潟医学専門学校(現新潟大学)の呼称、県下中等学校八百米リレーが待っているのです。

部員の区長として政治手腕をうたわれた人だけに、交渉事や進退かけひきの上手だつたのには今更感心したものでした。

尚現新潟市長の渡辺浩太郎氏はこの時はまだ競技部に入らず柔道部や角力部の大将でしたが、体格がよく馬力があつたので、翌年の大会には砲丸投げの選手として活躍しました。また先年渡辺氏と市長選挙で争つた松木明氏はこの時三年で補欠選手でしたが、翌年から多目的に正選手として出場し活躍しました。

以上 監督古山氏が高校生のため新潟高校生全部が新中ビキとなり審判長たる高等師範講師可児徳氏の身辺が危まれた程場内殺気みなぎり、そのためいつの間にか姿を消し閉会式にも現れず、新潟駅から逃げ帰つたといふことでした。

この大会が終れば新潟医学専門学校(現新潟大学)の呼称、県下中等学校八百米リレーが待っているのです。

而も野球大会の優勝旗は既に新中の手に帰っていたのです。

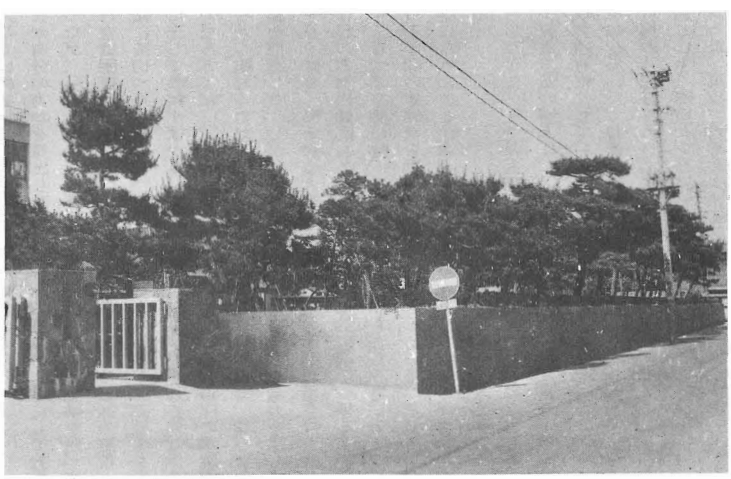
新潟県立新潟中学校と名入の高張大提灯一對を先頭に押し立て、栄光に輝く二本の優勝旗は野球部選手に擁されて一団とし、歓喜に酔つて絶叫する嗚呼青陵に生気あり強者等、強者等、君等我等勝てりの歌声は青山健児六百の隊伍となつてそれに続き、しばらくは青色、赤色の松明の光と勝利の讃とが八千八川舟江の街々に長く長く尾を引いて進んでいったのでした。

やがて暗闇の母校の校庭に凱旋しました。全員意気軒昂です。勝利に感激して述べられる祝辞と拍手が幾度となく繰り返けられ行く……

やがて暗闇の母校の校庭に凱旋しました。全員意気軒昂です。勝利に感激して述べられる祝辞と拍手が幾度となく繰り返けられ行く……

「新潟県下中等学校 陸上競技大会記録」

- ・大正一〇年一〇月一日(土) 於新潟師範学校グラウンド (二〇〇メートルトラック) 前日大雨 当日朝より快晴
- マラソン 五哩
- ④川口 恭平(新中) 三・八三
- 一〇〇米 決勝
- ①竹内 清栄(新中) 三秒〇
- 八〇〇米 決勝
- ①湊元 克己(新中) 三分三三
- ②高田師範七・⑤愛田中七七 (新中七点の無効なるも優勝)
- ③新中七点の無効なるも優勝
- ④記録に尺を用い、失格を無効と称していたしA組B組のことを一回一回と呼んでいたので面白い。
- ◎高・低ハードル・レースはまだ参加していない。



母校前庭のコンクリート塀完成 塀の上にキャラボク100本余を植えた

青山同窓会の 女子会員

昭和二十三年新しい学制が施行され、新潟中学校は新潟高等学校として新発足することになった。この卒業の五年生の希望するものが、高校三年生に編入され、二



新潟高校1年女子の調理実習

会だより

七十五回の皮切り

本年二月卒業した旧三回組の東京在住者が、宮純一君の幹事役で、初めて第一回の会合を持ちましたので、その報告をいたします。

一、日時 六月十日(土)午後五時半
二、場所 渋谷レストラン 柳水
三、会費 八〇〇円
四、出席者
伊藤 信助(慶応 商学部)
岩崎 義則(中央 経済学部)
上原 恒(立教 経済学部)

- 折笠 清介(早稲田第一法学部)
笠井 忠(代々木ゼミナール)
川上 滋(早稲田 商学部)
黒崎 順子(慶応 文学部)
桑原 考志(中央 法学部)
小坂橋正秀(早稲田第一経済学部)
佐藤 登志(青山学院 短大)
高木 久夫(立教 経済学部)
高橋 美樹(東京 外語大)
長井 英一(中央 商学部)
長井 仁(税務学校関係)
研修所
萬歳 信行(早稲田 商学部)
堀 一(中央 法学部)
前田 政夫(早稲田 商学部)
宮 純一(慶応 商学部)
山口 典男(青山学院 法学部)
山田 健一(中央 文学部)

県庁の『青山会』の開催

第五回県庁『青山会』が六月十二日、ホテル新潟で開催され、君会長以下八〇名が参加。午後六時から同八時三十分頃まで、痛飲放歌、懇談、盛會裡に終結した。なお今回は健富同窓会々長、加賀田県議に特別参加を頂いた。

県庁青山会幹事 池田信彦(五〇回生)

新潟市役所支部便り

支部長(三六回) 児玉賢雄(新潟水道局長)
新潟中学、略して新中、今は県高と呼ぶ。簡単に呼称ではあるがなんとなく重みがあり威厳のあるまた親しみのある名前である。

わが新潟市役所には、約三千名の職員のうち、その出身者が一〇四名おり、市の各課、教育委員会、議会事務局、水道局、保健所、病院と夫々の部署で活躍している。私は特殊な人を除いては最古参で年長でもある故をもって支部長としての位置をけがしている。

わが支部は毎年一回総会を開催する。本年も市長さんをはじめとして、出身市議員、本日から健富会長、斎藤幹事長、また母校の元校長の故をもって石川教育長さんからも出席をいただき、春三月二日川端町に新装なった田中ホテルにて盛大に開催した。

この支部総会は型の如くではあるが、新潟市役所における青山健児の意気揚々の会であった。

名譽支部長渡辺市長のファイトに満ちたあいさつ、健富同窓会長のユーモラスで且つ会長の貫録充分な激励のあいさつ、更に顧問である市議員各位からも夫々あいさつがのべられ、お互の健康と青山の弥栄を祈り乾杯、そして祝宴に入った。時の過ぎるのを忘れての歓談、続いて新旧校歌の交歓、なつかしい応援歌の数々の連続で、正に意気揚々の青山健児が、会を発揮し、歓はつきねど九時に散会した。

県高出身者は、どこかちがうところがあるというのだが、黙っているけれども、お互の心の底に流れているのである。

今こそ市街のたゞ中になったが、そもそも青山健児の青山は松林の山を意味するもので、今の校章もその松を型どったものである。青山原頭で鍛えたのだという自負が常にわれらを自重させ、発奮させるのである。

第三〇回卒業という大先輩の渡辺浩太郎氏を市長としてまた名譽支部長としていただいているのがわが支部である。つまり新潟市長は青山健児であるということである。正に光栄の至りである。

私は渡辺市長に永年接しているが、いろいろと教えられることがある。第一、仕事について実に厳しい時々叱られる。(俗に)「僕が君たちに厳しいのは、君達から僕を乗り越えていって貰いたいからだ」といわれるのである。正に予科練方針である。

三八会東京会の発足



最初の女子卒業生 浅間さんからの便り

常日頃御無沙汰致して居りましたので、お送りも出来ず、お詫びの申しようもございません。いろいろ頭の中で文章を描いてみましたが、ついペンを取る時間でもって失礼しました。

三九年七月当地に開業いたしましたから仕事と育児に追われて居ります。

同級の女子の方達の消息も調べればわかると思っておりますので、調べて御報告したいと思います。でも私共同級生は独身者を除き、皆大晩婚で今頃は一人二人の子供の世話に追われているのではなからうかという気がいたします。

もしもお許しいただければ第六号に間に合うように原稿を書いてお送りしたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(第六一回、浅間道子(旧姓北山)さんより。浅間さんは新大医科卒。三条市で精神・神経科大島病院経営)

故小山君は第二十九回の旧新潟中学校卒業で、旧制新潟高等学校第四回生である。新潟大学医学部を昭和四年三月、第〇回生として卒業した。私は新潟中学校は一年後輩であるが高等学校以来この間迄四十数年の長きにわたって世話になりつばなして、こゝに別れることになった。

高校へ入学した頃の彼はおとなしい一面とその底になか／＼の斗志とをひそめていた。当時流行した歌かるたのとり方については可成練習させられた。きまり字や、手の出し方、仲々やかましい指導ぶりであった。ひるは野球に、籠球にと運動をやった。当時やると新潟にはやり出された籠球には長身を利してポイントゲッターとしてよく動いた。長岡へ試合に行つた覚えがある。その頃理甲に居つたので医科受験の意向はあまりなかったのではないかと考えられる。それから、独逸語をよく勉強されたものと／＼文学的素養があったので、これらよりいふ方向に向かつたと思ふ。



十五年五月には、新潟大学医学部助教授になった。

その頃彼はつきつきといふいろいろの事をやつた。碁を覚え、麻雀を覚え、釣を始め、どれにも可成熱中して納得のゆく迄理解につとめて忽ちうまくなった。皆一流の域迄行くのだがまた次のことに移つて行った。私や長谷川など麻雀をやつていて、「なんだ、まだ子供みたいな事をやつて居るのか」と云う。しかし戦時中などでも、

故小山征助君を悼む

三〇回 河路貞夫 (健康保険新潟病院長)

私と云われたほどである。とも角大変な熱中振りである。又時に絵を描いた。私も一幅貰つてあるのが現在掲げて時々見ている。

日支事変が進んで私も召集令状が来た。その時、彼は長谷川などと一緒にイタリア軒の屋上へ私を誘つて別れの「ビール」を酌みながら、「決して死ぬなよ」と忠告してくれた。私はまだその頃晶子の詩など知らなかつたので一寸異様に考えられた。

昭和二十年秋の新潟大火には至長の旧建物は全焼するの悲運に逢つたが、その後は現在の上大川前五に移転して今日の盛大な事業の基をつくつた。昭和二十五年には奥さんと先立たれてからまた酒量が増えて来た。そのためいろいろのエピソードも出てきたが、又こ

旧制新潟中学三八回卒業生は、毎年欠かさず同窓会を開いておりもう二十年ちかく続いていると思ふが、京浜地方に在住する同窓お互いの連絡がとれたのは昨四十二年暮れのことであった。

故旧忘れ難き共通の思いが早速三八回東京会を発足させ、去る一月二十日夕第一回の会合が上大崎の「みやこ荘」でもたれた。

参加者十六名、何しろ青山を去つて三十五年もたつて居ることである。銀髪あり、光頭あり往時芒の感を深くしたのであったが、会の進むにつれてどの顔も青山の頃と少しも変らない。歓談大いに弾み午後九時閉会した。

なお、来賓として出席いただいた鈴木要先生は、青山同窓の縦のツナガリの必要、大同団結を説かれ、傾聴した次第である。

(幹事 吉田正男記)

三八回 近況便り

第三八回卒業の三八会総会を、四十一年十二月一日、新装成った田中ホテル(館主田中松一は三八回生)に開催、二九名参加。

席上、同級生一同から田中ホテルの竣工を祝し、関屋俊彦画伯(三八回生)の油絵を贈り、お互いの健康と今後の活躍を期待すると共に、田中ホテルの発展に協力することを約し、昔の悪童に戻つて大いに歓談を重ねた。

同窓会費納入状況

昭和四十一年度

期	9	11	14	16	17	18	19	20	21	22	23	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
人員	1	1	2	3	1	1	3	3	8	5	6	2	7	9	27	10	12	8	10	27		
期	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53		
人員	28	17	19	7	15	21	13	10	6	7	7	14	13	9	17	9	31	10	3	2		
期	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73		
人員	15	20	9	13	11	12	9	14	7	2	7	2	0	5	1	1	0	1	43	576		
合計																					通信	1

同窓会費納入についての皆様方の御協力を心から感謝いたします。尚一層の御協力をお願いいたします。

事務局